

モデル地域用

「総合的な学習の時間」モデル事業中間報告書

(モデル地域名 山口県菊川地域)

I. 地域の概要 (平成 15 年 4 月現在)

菊川地域 (モデル校数: 小学校 3 校、中学校 1 校、高等学校等 1 校)	
菊川町立豊東小学校	
菊川町立岡枝小学校	
菊川町立檜崎小学校	
菊川町立菊川中学校	
山口県立田部高等学校	全日制課程、学科名〔普通科、総合生活科〕

II. 平成 15 年度の実践研究の概要

1. 推進地域の研究の見通しを踏まえて定めた、モデル地域としての現状及び研究の計画・見通し等

(1) モデル地域における「総合的な学習の時間」の現状と問題点

○ 現 状

- 1 豊かな自然や人、文化等多くの地域素材があるが、児童生徒とそれらとのかかわりは希薄であり、関心も高いとは言えない。また、家庭や地域での勤労体験や奉仕体験が少ないこともあり、社会とのかかわりを実感し自己のあり方を考えていこうとする力を十分に育てていく必要があると考える。
- 2 地域の子どもたちを地域で育てていこうとする気風があり、ボランティア活動も盛んで児童生徒の健全育成に支援・協力を惜しまないが、それらを学習活動の中で有効に活用する方途については、これから開発していく必要がある。
- 3 課題追求学習が調べ学習に終始し、そこから新たな課題を見つけ出し学習を発展させていくなどの主体性や創造性については、さらに身に付けさせていく必要がある。
- 4 幼・保・小連携、中・高連携それぞれに異校種連携教育を実践しており、児童生徒の人間関係に広がりが見られるようになってきている。
- 5 中学生の 8 割以上が町外の高等学校へ進学するため、ふるさと学習の系統的・発展的な取組について体系化を図る必要がある。
- 6 高校では、学校裁量の時間に実施してきた学校独自の「講義」の時間を発展的に継承・展開しており、高大連携教育の積極的な導入も視野に入れた取組を展開している。

○ 課題

- 1 異校種間（縦のつながり）と地域（横のつながり）との有機的な連携を図っていく中で、児童生徒の「育ち・学びの独自性と連続性」が必要である。
- 2 地域での様々な体験や追究活動を通して、地域と自分とのかかわりを実感させるとともに、自己のあり方や生き方を考えることのできる児童生徒を育成していくことが必要である。
- 3 地域素材や人材は数多くある環境でありながらも、十分活用されていない。これらの活用と進級学年での継続性や関連性等に対する取組が必要である。
- 4 地域素材や人材の掌握が各校まちまちであり、情報交換等を通して地域での共有化を図り活用していくことが必要である。
- 5 地域に開かれた情報発信の場を、各学校の実態等に応じて、多様な形で設定することが必要である。

(2) モデル事業の実践研究について

○2年間を通じた研究の計画・見通し

研究主題を、『菊川に学び、心豊かに生きる児童生徒の育成～小・中・高の望ましい連携のあり方を求めて～』として、小・中・高の有機的な連携のあり方を中心とした研究に、モデル地域一丸となって取り組む。

そのために平成15年度の前半を研究組織の確立、各モデル校の状況の相互理解、研究方針の検討等にあて、後半で各モデル校が実践に取り組む際の共通理解や及び各学校における実践研究を行う。

平成16年度前半は、「総合的な学習の時間」の各モデル校における実践研究及び域内の研究会、授業研究等に取り組む。その際、すべてのモデル校で単元プログラムを作成して実践に取り組み、互いに授業公開や研究会を行う。

また平成16年度の後半には、研究のまとめ・評価・反省を行い、地域指定の終わる平成17年度以降にもつながる研究となるようにする。

○モデル事業としての取組の評価の観点と検証の方法

平成15年度は「総合的な学習の時間」の具体的に実践を進めるための準備が研究の中心となるため、主に研修組織や教職員を対象に、次のような観点で評価を行う。

- ・ 研究体制は十分に機能しているか。
- ・ 「総合的な学習の時間」に対する教職員の認識は深まっているか。
- ・ モデル地域の研究の趣旨は、各モデル校の教職員に理解されているか。
- ・ 地域指定に対する教職員の研究意識は高まっているか。
- ・ モデル校間の相互理解は深まっているか。
- ・ モデル校間の教職員や児童生徒の交流は活性化しているか。

以上の観点について、推進連絡協議会での協議や各モデル校の校内研修での話し合い、意識調査などによって検証を行う。

平成16年度は「総合的な学習の時間」の各モデル校の具体的な実践を中心とした研究に取り組むので、評価の対象を児童生徒や授業にも広げ、次のような観点についても、アンケートや実態調査を使って検証を行う。

- ・ 「総合的な学習の時間」に児童生徒は意欲的に取り組んでいるか。
- ・ 町（モデル地域）で共有した「つきたい力」は、十分に身につけているか。
- ・ ねらいを達成するために、適切な単元となっているか。
- ・ 小・中・高の連携を意識した単元となっているか。
- ・ 教科や他の領域との関連を考慮した単元となっているか。
- ・ 各モデル校の全体計画、年間計画は適切であるか。

2. 平成15年度の取組概要

研究推進のための共同研究体制の確立

- 菊川町モデル事業推進連絡協議会
町教育委員会の担当者と、各モデル校の校長・教頭・教務主任で構成され、研究を統括し、実践研究部会への指導助言を行う。
- 推進実践研究部会
各モデル校の教務主任・研修主任を主なメンバーとし、必要に応じて教頭が参加して、共同研究推進の中核となる。

共同研究の推進のために

モデル地域としての共同で研究をすすめていくことを基本とする。そのために、次のような取組みや共通理解を行った。

- (1) 「総合的な学習の時間」単元一覧表の作成
各校の取組みの共通理解や交流・連携のために、各モデル校の「総合的な学習の時間」の単元とその実施時期をまとめた一覧表を作成。
- (2) 共通テーマ「菊川に学ぶ」の設定
モデル地域として共通テーマ「菊川に学ぶ」を設定。各モデル校の従来の実践の中から関連した単元を洗い出し、どのモデル校も1単元は実施。
- (3) モデル地域で共有する「つきたい力」の設定
モデル地域全体で「つきたい力」（見つける力・追究する力・表現する・活かす力）を共有し、小・中・高の発達段階に応じた系統表を作成。
- (4) 「単元プログラム」の作成と活用
モデル地域として「単元プログラム」の基本とすることを確認するとともに、各モデル校においては、各単元を実施する前に「単元プログラム」の検討を行うことを共通理解。
- (5) 「ブリッジ」の作成と活用
「つきたい力」を「単元プログラム」に反映するには、その中間にあって橋渡しをするものが必要であろうと考え作成した。それを「ブリッジ」と呼ぶこととした。この「ブリッジ」を活用し、「単元プログラム」を作成。

授業公開、交流、合同研修会

(1) 公開授業

各モデル校ごとに年3回程度授業を公開し、他のモデル校の教職員が参観。

(2) 児童生徒の直接交流

小・中・高の連携を図るためには、児童生徒の直接の交流も重要になると考えて意図的に設定。具体的には次のような実践が行われた。

- ・ 小学4年生の高齢者擬似体験を高校生が指導・サポート
- ・ 小学生が高校の発表会に参加・交流
- ・ 中学生が「総合的な学習の時間」で調べた学習成果を小学生に発表
- ・ 中学生による小学校での職場体験
- ・ 小学生が中学生に取材活動
- ・ 町内3小学校の3年生が一堂に会しての「同学年交流学习」

(3) 合同研修会

モデル地域内の教職員が参加しての合同研修（講演会）を実施。

- ・ 京都ノートルダム女子大加藤明先生講演会（12月）
- ・ 千葉大学鈴木敏恵先生講演会（3月）

先進校視察と報告会

- ・ 広島大学附属福山中・高等学校（2月）
- ・ 愛知県一色町立一色西部小学校、岐阜県関ヶ原町立関ヶ原中学校（2月）

HPでの研究概要の発信

研究の進捗状況及び研究成果を普及するため、モデル校、モデル地域のHPを開設し、リンクさせる。

3. 平成15年度の成果及び課題

○ 成果

「つきたい力」のつながりによる連携 = 「育ちと学びの連続性」

それぞれ独自の取組みを行っている学校間、さらに校種も違う学校間で何をもって連携するか、何を連携の柱として研究を進めるかが最大の課題であった。当初、各モデル校の単元のつながりによる連携の方策を模索したが、各校、各校種の実情は違い、共通の単元を無理矢理設定することは各モデル校の独自性を損なう危険性もあることが論議された。最終的に、本モデル地域では共有する「つきたい力」のつながりによる連携こそが適切であるという結論に達した。すなわち、小学校では「このような活動をしたから」ではなく、「小学校ではこのような力がついているから、中学校ではこのような力をつける、そのために必要な活動（単元）を仕組む」という過程を通して考えていく。本モデル地域では、このことを「育ちと学びの連続性」と呼ぶこととしている。

「総合的な学習の時間」の理解の共通化と深化

これまでは、「総合的な学習の時間」について、各モデル校はもちろん、各教職員の理解も様々であった。それが文部科学省の推進地域訪問、モデル地域内の教職員が参加しての合同研修会、「総合的な学習の時間」研究協議会や研究先進校の視察とその報告会等を通して、「総合的な学習の時間」に対する理解が深まり、共通化されてきた。

公開授業による各校の実態の理解

他校の公開授業に参加することで、各モデル校の様子を肌で感じることができ、それぞれの活動や課題などに対する理解が深まった。また日頃話す機会もなかった他校の教職員とのつながりもでき、小・中・高の連携を深める上で大変効果がある取り組みであった。

具体的実践（単元の実践）の手順の確立

「つけたい力」→「ブリッジ」→「単元プログラム」→「実践」という研究の構えが確立されたことにより、各モデル校の取組みを互いに評価・研究し合うことが可能となった。また各単元の実践者の取組みは、ごく自然にモデル地域の研究方針に沿ったものとなり、結果として各単元の工夫改善にエネルギーを集中することができるようになった。（別添資料参照）

○ 課題

児童・生徒が交流を進めるための移手段

公共交通機関の整備が十分ではない本モデル地域において、子どもたちの交流を進めるためには、移手段の確保が大切になってくる。

モデル地域の全教職員による研究とする

地域指定ということで、各校の代表者が集まり協議する場面が多いが、その話し合いの結果が全教職員に十分に理解され、浸透しているとはいえない。また「総合的な学習の時間」の直接の実践者同士の交流も不十分であった。これらの課題を解消し、モデル地域のすべての教職員が意欲的、前向きに研究に取り組めるようにするために、研究組織の見直しや全体研修会の更なる充実が必要である。

教科・他領域との関連と全体計画

総じてどのモデル校の「総合的な学習の時間」の取組みも、教科や他の領域と関連させて実施するという意識が薄い。また全体計画も未整備な点がある。全体計画を今一度検討し直す中で、教科との関連も意図的に図るようにする。

Ⅲ. 平成 16 年度の実践研究の概要

モデル地域の全教職員による研究とするための工夫

モデル地域の全教職員の研究への参画意識が高まるように、例えば全体研修会を増やしたり、研究テーマを決めた分科会を設定して所属してもらうなど、研究組織の見直しを図る。また共通テーマ「菊川に学ぶ」を軸とした実践者同士の交流などを模索する。

教科・他領域との関連と全体計画

教科や他の領域と関連させて今一度単元プログラムを見直すとともに、モデル地域として、より望ましい全体計画の研究に取り組む。

単元プログラムの工夫・開発と取組みの充実

教科・他領域との関連以外の観点からも、各単元プログラムの見直しや工夫改善、新たな単元プログラムの開発を実践と並行して行う。また各単元の取組みも、「活動があって学びがない」ことのないよう留意し、充実を図る。

情報発信の工夫とHPの充実

HPを含む広い意味での情報発信という視点から、さらなる工夫を図る。HPの整備は現時点でも進んでいるが、さらにその充実に努める。

研究の評価・反省と次年度（H17年度）の準備

事業評価を行うとともに、研究についてのさらなる深化を図り、H17年度以降につながる研究のさらなる前進を図る。

単元プログラム作成のための「ブリッジ」

(資料)

菊川町の「総合的な学習の時間」
で共有する「つきたい力」

「つきたい力」と「単元プログラム」の橋渡し
「ブリッジ」

「単元プログラム」

	小学校	高学年
見つける力 きづく つかむ	○自然や身の回りの生活や社会に興味・関心をもち、疑問をたいて課題を追究し、たいてい課題を追究することができる。	○身の回りの人・自然・社会に興味や関心をもつ。 ○活動の流れや時間の見通しをもって学習課題を決める。
追究する力 しらがえる かんがえる	○課題解決に向け、適切な方法をもち、適切な情報や体験を自分なりに考え出すことができる。	①調べ過程で出てきた新たな疑問をより深く追究する。 ②調べ方法を選択する。 ③根気よく主体的に課題に向かって活動する。 ④安全に気を配り、計画を立てて活動する。 ⑤パソコンやデジタルカメラなど目的に応じた情報機器を活用する。 ⑥資料を選択し、簡潔にまとめ考察する。 ⑦相手の立場に立って行動する。 ⑧それぞれの能力にあつた役割を分担する。
表現する力 まとめる つたえる	○調べたこととお互いを交換し、お互いの情報や方法を伝え、効果的な方法を伝えることができる。	①表現方法を選択し、構成する。 ②根拠を明らかにし、相手にわかりやすく話す。 ③人の意見を尊重し、自分の考えに生かそうとする。
活かす力 みつめる つなげる	○活動を振り返って、自己の成長やよさを自覚し、次の生活に生かすことができる。	①学習したことを自分の生活に生かしてみようとす。 ②身近な事象から関連することをみつけ出す。

	小学校	高学年
見つける力	①身の回りの人・自然・社会に興味や関心をもつ。 ②活動の流れや時間の見通しをもって学習課題を決める。	①調べ過程で出てきた新たな疑問をより深く追究する。 ②調べ方法を選択する。 ③根気よく主体的に課題に向かって活動する。 ④安全に気を配り、計画を立てて活動する。 ⑤パソコンやデジタルカメラなど目的に応じた情報機器を活用する。 ⑥資料を選択し、簡潔にまとめ考察する。 ⑦相手の立場に立って行動する。 ⑧それぞれの能力にあつた役割を分担する。
追究する力	①調べ過程で出てきた新たな疑問をより深く追究する。 ②調べ方法を選択する。 ③根気よく主体的に課題に向かって活動する。 ④安全に気を配り、計画を立てて活動する。 ⑤パソコンやデジタルカメラなど目的に応じた情報機器を活用する。 ⑥資料を選択し、簡潔にまとめ考察する。 ⑦相手の立場に立って行動する。 ⑧それぞれの能力にあつた役割を分担する。	①調べ過程で出てきた新たな疑問をより深く追究する。 ②調べ方法を選択する。 ③根気よく主体的に課題に向かって活動する。 ④安全に気を配り、計画を立てて活動する。 ⑤パソコンやデジタルカメラなど目的に応じた情報機器を活用する。 ⑥資料を選択し、簡潔にまとめ考察する。 ⑦相手の立場に立って行動する。 ⑧それぞれの能力にあつた役割を分担する。
表現する力	①表現方法を選択し、構成する。 ②根拠を明らかにし、相手にわかりやすく話す。 ③人の意見を尊重し、自分の考えに生かそうとする。	①表現方法を選択し、構成する。 ②根拠を明らかにし、相手にわかりやすく話す。 ③人の意見を尊重し、自分の考えに生かそうとする。
活かす力	①学習したことを自分の生活に生かしてみようとす。 ②身近な事象から関連することをみつけ出す。	①学習したことを自分の生活に生かしてみようとす。 ②身近な事象から関連することをみつけ出す。

省略

単元プログラムの作成と同時に評価規準も設定し、単元プログラムに記載する。

(別紙2)

「総合的な学習の時間」モデル事業山口推進地域15年度取組の概要、16年度の計画

実施時期	取組概要	取組のねらい等
平成15年6月	「総合的な学習の時間」モデル事業 推進地域指定	
平成15年6月	(推進地域単位) 推進地域指定の県教委通知を受けての連絡会 ・モデル事業の推進について ・5校の連携について	・課題・計画を踏まえ、各学校の「総合的な学習の時間」実施計画の見直し
平成15年7月	(モデル地域単位) 第1回モデル地域会合(連絡協議会) 研究組織発足 ・モデル地域の現状・課題の分析 ・委員、組織について	
平成15年7月	(モデル地域単位) 第2回モデル地域会合(研究部会) ・研究主題について ・つけたい力について ・研究計画(スケジュール)	
平成15年8月	(推進地域単位) 第1回推進地域会合(連絡協議会) ・所感説明 ・モデル地域、モデル校の概要説明	・研究のポイント及び研究の方向性について
平成15年8月	(モデル地域単位) 第3回モデル地域会合(研究部会) ・研究主題の見直し ・共通テーマ、つけたい力について ・文科省訪問について確認	・県の指導を受けての、研究の見直し・確認等
平成15年8月	(モデル地域単位) 第4回モデル地域会合(連絡協議会) ・前回の研究部会の報告を受けての協議、指導	
平成15年8月	(モデル地域単位) 第5回モデル地域会合(研究部会) ・つけたい力の系統表の作成	

平成15年9月	(モデル地域単位) 公開授業(豊東小学校)	
平成15年9月	(推進地域単位) 文部科学省担当者訪問 ・モデル事業の趣旨再確認 ・モデル校の取組に対する指導・助言	
平成15年9月	(モデル地域単位) 第6回モデル地域会合(研究部会) ・文科省訪問の指導事項についての協議 ・評価の観点、評価規準について	・指導・助言事項を踏まえ、モデル地域、モデル校としての計画の見直し
平成15年10月	(モデル地域単位) 第7回モデル地域会合(連絡協議会) ・文科省訪問の指導事項の確認 ・これからの研究の方向について	
平成15年10月	(モデル地域単位) 公開授業(榑崎小学校)	
平成15年10月	(モデル地域単位) 公開授業(榑崎小学校)	
平成15年11月	(モデル地域単位) 公開授業(田部高校)	
平成15年11月	(モデル地域単位) 公開授業(榑崎小学校)	
平成15年11月	(モデル地域単位) 公開授業(豊東小学校)	
平成15年12月	(モデル地域単位) 第8回モデル地域会合(研究部会) ・単元プログラムについて ・ブリッジについて	
平成15年12月	(モデル地域単位) 公開授業(豊東小学校)	
平成15年12月	(モデル地域単位) 公開授業(菊川中学校)	
平成15年12月	(モデル地域単位) ・合同研修会(講演)	・加藤明 (ノートルダム女子大)
平成16年1月	(モデル地域単位) 公開授業(菊川中学校)	
平成16年1月	「総合的な学習の時間」連絡協議会及びモデル事業研究協議会	・推進地域及びモデル地域から5名参加

平成16年2月	(モデル地域単位) 公開授業(菊川中学校)	
平成16年2月	(推進地域単位) 第2回推進地域会合(連絡協議会) ・モデル地域、モデル校の取組状況報告 ・モデル事業研究協議会復伝	・来年度の研究のポイント及び研究の方向性についての確認
平成16年2月	(モデル地域単位) 第9回モデル地域会合(研究部会) ・各学校における「単元プログラム」案、全体計画案の検討	
平成16年2月	(モデル地域単位) 公開授業(岡枝小学校)	
平成16年2月	(モデル地域単位) 公開授業(豊東小学校)	
平成16年2月	(モデル地域単位) 先進校視察 ・広島大学附属福山中・高等学校 ・愛知県一色町立一色西部小学校と岐阜県関ヶ原町立関ヶ原中学校	
平成16年2月	(モデル地域単位) 第10回モデル地域会合(連絡協議会) ・先進校視察復伝 ・来年度の研究について ・中間報告書について	・「総合的な学習の時間」連絡協議会及びモデル事業打合せにおける文部科学省指導事項等復伝により、研究の方向性の確認
平成16年3月	(モデル地域単位) ・合同研修会(講演)	・鈴木敏恵(千駄学) ・菊川中生徒も参加
平成16年3月	中間報告書提出	
平成16年4月	(モデル地域単位) 第1回モデル地域会合(連絡協議会) ・研究の年間計画の確認 ・研究組織の見直し ・研究の評価の方法について ・全体研修会準備	

平成16年5月	(モデル地域単位) 第2回モデル地域会合(全体研修会) ・本年度の取組みについて ・分科会による協議	・各分科会ごとにテーマを設定し協議
平成16年6月	(推進地域単位) 第3回推進地域会合(連絡協議会) ・全体研修会の総括	
平成16年6～7月	(モデル地域単位) ・公開授業	
平成16年7月	(モデル地域単位) 第4回モデル地域会合(連絡協議会) ・全体研修会準備	
平成16年8月	(モデル地域単位) 第5回モデル地域会合(全体研修会) ・各分科会の中間報告 ・分科会による協議	・各分科会ごとにテーマを設定し協議
平成16年9月	(推進地域単位) 第6回推進地域会合(連絡協議会) ・全体研修会の総括 ・研究の見直し	
平成16年9～11月	(モデル地域単位) ・公開授業	
平成16年12月	(推進地域単位) 第7回推進地域会合(連絡協議会) ・研究のまとめについて	
平成17年1～2月	(モデル地域単位) ・公開授業	
平成17年2月	(推進地域単位) 第8回推進地域会合(連絡協議会) ・研究のまとめと次年度の計画	